

中部・北陸信越圏 夏の特集

国内初の透明アンテナタグ 新潟駅ショットガン好評



駅前乗り場に入構するタクシー。第2待機場を經由しないと入構できないルールで、經由の有無をICタグで確認している(新潟駅万代口)

新潟駅・万代口のタクシー乗り場で今年4月から運用しているショットガンシステムが、国内では初めて、車両のフロントガラスに貼ることが認められたアンテナを使った方式で、関係者から好評を得ている。横8.5センチ、縦0.5センチの大きさの透明フィルムに電波を送受信するアンテナを印刷、車両を管理するチップが埋め込まれているタイプ。駅に入構する乗務員も「運転していてアンテナの存在を意識しないで済む。お客様にも全く気づかれない」とスマートな印象に満足している。

アンテナを製造しているのは富山市に本社がある日本エレクトロニクスサビ(成川和彦社長)。新潟通信機(新潟市)が新潟駅構内タクシー組合(金井正志理事長)に販売した。アンテナは、RFIDと呼ばれる電波の送受信により非接触でICチップのデータを確認する技術が使われている。電波の送受信には920メガヘルツの周波数を利用している。日本エレクトロニクスサビの橋本康博部長代理は、「貼るタイプのアンテナは、市場に汎用品も出回っているが、透明ではないことなど、タクシー車両に使うには適当ではなかった。タクシー事業者の方々に、見栄えが悪く喜んでいたが、この透明のアンテナが開発のきっかけだった」と経緯を振り返る。

全体が横8.5センチ、縦0.5センチの大きさだ。フィルムに印刷されているアンテナ線の細さわずか0.2ミリ。中心にあるチップ(ICタグ)は直径1ミリという大きさ。アンテナ自体は920メガヘルツの電波の送受信に適した一定の割合で大きさが決まっているものの、透明フィルムへの印刷が可能となったことで、車両の認証管理システムへの実用化に道が開けた。

今回のアンテナ自体は新潟駅より前、2013年に金沢駅のタクシー乗り場で実用化されている。タクシー車両の側面に貼った形で、乗り場の利用回数を管理している。

新潟駅では国内で初めてICチップの堀誠雄さんは「フロントガラスにアンテナがナ自体は貼ってあるだけ。電源を必要としないので、貼りかえをしなくても、半永久的に使える」と耐久性も強調する。

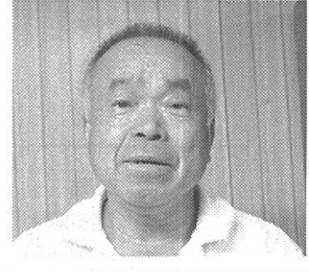
日本エレクトロニクスサビが「しやす」と新潟駅での運用の利点を強調。アンテナ自体は貼ってあるだけ。電源を必要としないので、貼りかえをしなくても、半永久的に使える」と耐久性も強調する。

日本エレクトロニクスサビは、新潟通信機と共同で乗り場に設置するゲートや電光表示、監視カメラ、待機場や乗り場の入構を管理するソフトなどをシステム一体として新潟駅構内タクシー組合に納入している。新潟駅構内タクシー組合の事務局では、「4月の導入から3カ月を経過し、全体の運用が落ち着いてきた。一部乗務員にルール違反が見られるのが今後の課題」と(佐々木紀彦新潟市ハイヤータクシー協会専務理事)として、アンテナなどの設備や機器に大きな問題はないと話している。

地元の人口減少に苦戦

伊豆土肥交通・山本社長

伊豆土肥交通はレンタカーによる修善寺方面などへの事業から貸切バス事業に利用し、伊豆の国市長岡に参入。その後2004年に地元のタクシー事業者を買収。現在は貸切バス5台と中型タクシー5台で事業を運営している。タクシーの乗務員は8人。タクシーの主な需要は、地元の旅館からの配車依頼



「上がっている。西伊豆でタクシー事業を行う伊豆土肥交通(伊豆市土肥)の山本和弘社長に、地域の現状について話を聞くとともに、運輸支局の動きについて取材した。」



④山本社長は保有するタクシーは5台。鉄道駅がないため本社近くと松崎町の2カ所に乗り場を確保して営業している(17日) ⑤同じ伊豆でも、伊豆急行線や伊豆箱根鉄道駿豆線の駅タクシー乗り場は観光客の利用も多い(伊豆急行線河津駅、19日)

デマンドの花咲かそう

新太田タクシー社長澤田 幸博

会社の殺風景な応接間の隅に、額縁に入れた色紙がぼつんと掲げられています。そこに、こう書かれています。

「たのしみは、朝おきいで、昨日まで無かりし花の咲けるみる時」(作者 橋本寛)

1994年6月13日、天皇・皇后両陛下が訪米の折り、クリントン大統領が歓迎スピーチで披露した一首です。

基本的には、毎日の何気ないことを喜び日本人の精神文化のすばらしさを称賛したものだと思われています。

私自身は、時々、もっと違う感覚で色紙を眺めてみたい。新しい機械設備を咲かせよう。

寄稿

備を導いた時、あるいは乗務員が入社した時、あるいは新しいことに挑戦した時、しばらくしての朝出勤したら、(成果という)きれいな花が咲いていたら、どんなにか嬉しいだろうかと。

当社は、可見市でのデマンド運行を嚆矢として、自社開発の配車システムを全国に普及させたという身の丈に合わないことに挑戦しています。

時に、萎えそうなる心を後押ししてくれているもの一つに、色紙の存在があります。

デマンド取り組みに興味があれば、ぜひ連絡してください。いっしょに花を咲かせましょう。

暑中御見舞い申し上げます。